



光とろうそくの灯りで石仏を眺める拝観者

光と音の幻想世界 五百羅漢紅葉ライトアップ

11月23、24日に五百羅漢紅葉ライトアップが開催され約350人が訪れました。ライトに照らされほんのり赤く色づく紅葉やろうそくの灯りに照らされた石仏は、日が沈むにつれて雰囲気が変わっていききました。訪れた人々は、境内に流れる落ち着いた音楽とともに、幻想的な世界を楽しんでいました。焼き芋などの飲食や輪投げなどの縁日コーナーもあり、大いに賑わっていました。



願い事が書かれたペットボトルが輝く

九会で夢と希望が輝く ペットボトルツリー

11月30日、鵜野飛行場跡で九会地区ふるさと創造会議が企画し、約1800個のペットボトルで作った巨大ツリーの点灯式が行われました。点灯式には、100人を超える子どもたちが集まりペットボトルに願い事を書きました。作成には、地域のボランティアや北条高生が参加しました。同会議の深田英世会長は「みんなの願い事が天に届いてほしい」と話しました。



光で装飾された法華口駅に到着する車両

冬の夜を彩る 北条鉄道イルミネーション

普段とは違った鉄道の雰囲気を感じてもらおうと、11年前から北条鉄道が始めたイルミネーション。今年は、長駅、法華口駅、田原駅、網引駅で実施されました。車両をかたどった電飾やクリスマスツリー、雪の結晶などの冬らしさを感じる飾りがステーションマスターらによって飾り付けられ、夜の駅に輝きました。駅を訪れた乗客たちは、光の装飾に見入っていました。



キャラクターの動き方を想像し、アニメーションづくりをする児童

北条小6年 プロから学ぶ創作の秘訣

北条小学校の6年生は11月6日から2日間、株式会社スピードからの授業を受けました。「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」の一環として、モーションキャプチャー技術の体験と、タブレットを使ったアニメーション制作を行いました。講師は「何事も考え続けることが大切だ」と伝え、児童は「しっかりと考えて行動していきたい」と話しました。



自分で描いたイラストをレーザー彫刻機で刻印する様子を見守る参加者

探求心と創造力を学ぶ 「加西STEAMフェス」

11月23日、加西STEAMフェスがアスティアかさいで開催されました。市が推進するSTEAMを体験できるイベントで、兵庫教育大学の学生とパズル作りやALTと英語に親しむワークショップが行われました。下里小6年生は、「スペシャルみつぼしカレー」を販売し、250食を完売。カレーレシピを考案した下里小の卒業生が、イベントの最後にプレゼンテーションを披露しました。



加西特産の果物を使ったスムージーを提案する児童

九会小6年 加西のお土産を提案

九会小学校の6年生は、5月から市と協力して加西のお土産開発に取り組んできました。11月29日に加西市観光協会や地域の事業者に、10班の子どもたちが提案し、中には、特産のぶどうやいちごを使ったサンドイッチ（商品名：かさいっち）やスムージーなどがありました。soraかさい関係者からは「ネーミングはとても大事」と、商品名の着眼点の良さが評価されました。



航空魚雷に見入る来館者

黒田さんが加西市に寄贈 平和学習に活用を

11月に黒田秀一さん（北条町北条）から、加西市に九一式航空魚雷が寄贈されsoraかさい（鵜野町）で常設展示されています。九一式航空魚雷は、米軍に提出した姫路海軍航空基地の備品目録にも書かれており、鵜野飛行場に配備されていたことが分かります。

黒田さんは「若い世代にも戦争の歴史と平和の大切さを知ってもらいたい」と話しました。



腹話術を披露する春風小イチローさん

腹話術を通じて交流 青い鳥学級

11月29日、視覚障がいのある方を対象とした「播磨東青い鳥学級北支部加西教室」が開催されました。21人の学級生が参加し、ろごす腹話術研究会ねひめ加西の代表である春風小イチローさんとメンバーによる腹話術を楽しみました。また、人形に触れたり、自分で動かしたりする体験を通じて、腹話術の魅力を感じていただき、笑顔あふれるひとときとなりました。



長島愛生園の歴史を学ぶ参加者たち

人権バスツアーで 長島愛生園を訪問

11月6日、国立療養所「長島愛生園」（岡山県瀬戸内市）を訪問しました。ハンセン病に対する差別や偏見を解消するには、まず正しく理解することが重要。参加者14人はハンセン病とその治療についての説明を聞きました。「らい予防法」によって患者が療養所で長期間社会から隔離され、人々の中に偏見・差別意識が植え付けられた歴史についても学ぶ良い機会となりました。



リースの土台の出来栄を地域の方に見てもらう児童

西在田小が地域の方と交流 サツマイモでリースづくり

西在田小の全児童67名と西在田地区ふるさと創造会議とで植えたサツマイモを、11月上旬に収穫しました。収穫したイモのつるを使って、11月26日に1・2年生13人が、地域の方8人とリース作りをしました。最初はつるが硬くて「巻くのが難しい」と児童からの声。地域の方に助けてもらい、一人でもできるようにになりました。さまざまな大きさのリースが完成しました。



炊き立てご飯でおにぎりを握る児童とふるさと創造会議の方たち

賀茂小3年が作ったお米 おいしくいただきました

賀茂小3年生20人は、賀茂地区ふるさと創造会議と、6月からバケツで稲づくりに挑戦してきました。11月19日、収穫したお米を土鍋で炊きおにぎりにして食べました。講師の調理研究家の村上貴美子さんから、梅干しと食べると栄養の吸収が良くなると教わり、梅干しも加えました。児童は「自分たちで育てたお米だから、いつものごはんよりもおいしい」と味わいました。



榊原靖司会長（写真中央）からお米を寄贈され喜び園児たち（北条こども園）

プロ農家からこども園へ おいしいお米をプレゼント

地元でとれたお米を食べてもらおうと、市内の認定農業者7人で構成する「アスリートファーマーズ加西（AFK）」が、市内のこども園に、収穫した新米300kgを寄贈しました。今回で9回目の取り組みです。

子どもたちは体重よりも重い大きな米袋を抱えながら、元気な声で「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えました。寄贈されたお米は、それぞれの園の給食で提供されます。